

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月21日

学校法人 ひかりの子学園
認定こども園 ひかりの子幼稚園

1. 本園の学園理念

- 自分が愛されていることを知り、他者を愛することを知り、心豊かに「生きる力」を身につけられるようキリスト教の精神に基づき育成に取り組みます。その過程においてひかりの子に関わる子ども・保護者・保育者 などすべての人が共に成長することを目的とします

2. 本園の保育理念

- キリスト教保育の理念に基づいて、子どもは一人ひとり神さまから愛されているかけがえない存在として捉えます。共に生きることを通して、自分を愛し、他者を愛する、子どもたちの主体的な心と体の成長を見守り支えます

3. 保育方針（ひかりの子が大切にしていること） 保育目標（育てたい子ども像）

《保育方針》

- ・家庭的なあたたかさ
- ・自然とのふれあい
- ・遊びを中心とした保育
- ・共に育ちあう
- ・平和への祈り

《保育目標》

- ・安心して自分を表現する子
- ・自然に目を向け、神さまの恵みに感謝する子
- ・自分で考え、自分で行動する子
- ・違いを認め合える、おもいやりのある子
- ・社会に目を向け、自分が出来ることを考える子

4. 重点的に取り組んだ目標・計画

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に照らし合わせ、一人ひとりの幼児を大切にし質の高い教育の実践をするために、本年度は「子どもの声を聴き、生きる力を育む保育」を目指しました。

5. 評価項目の達成及び取り組み状況

N O	評価 項目	評価	取り組むべき課題	取り組み状況
1	人材育成	A	・組織力の向上	年度初めに“キックオフミーティング”を開催。理念の再確認および組織のあるべき姿、今後の方向性について共有できた。 組織として与えられた自分の役割を知ること、それぞれが責任を持って、主体的に動こうと意識するようになった。また組織図から自分の直属の人が誰か知り、相談や指示を仰ぐ等、組織の体制が少しずつ構築できた。
		AB	・保育の質の均一化	行事・ルールを見直し、担任間の認識のずれをなくすため、共通理解を明文化して、伝え漏れや解釈のずれがないように冊子を作り直した。職員で読み合わせをし、なぜそうするのかを伝え、みんなが周知し、同じ認識を持って保育ができるようにした。しかし、できた部分とそうでない部分があり、現在も継続中。
		A	・組織力の向上、保育の質の均一化	学年ごとにリーダーを配置。リーダーがクラスに入って俯瞰的に様子を見ることで、保育の質が向上。報告、連絡、相談の流れがスピードアップする。経験豊かなリーダーが若手教諭に対して具体的なアドバイスを日常的に行えるようになり、大きな支えとなった。 今年度よりポートフォリオ（子供の成長を写真やエピソードで綴る「成長のプロセス」の記録集）を行い、その確認、指導をリーダーが行った。ポートフォリオを導入することで、保育者自身が子どもの姿をより深く捉え、保育を言語化する能力が養われた。
		AB	・キリスト教保育への理解深化	『キリスト教保育指針』を教員で輪読を実施。私達がなぜこの理念や方針で保育をしているかという根本的な目的に立ち返ることをねらいとして行った。また全職員がキリスト教保育の考え方を知り理解を深め、職員全員が「イエス様ならどうされるか」という神様の視点で考え、行動指針として共有できた。 倉治小学校教頭の野地岡先生による人権研修を実施。教員自身が自己開示することで、子どもが安心して自分を出せるようになることを学んだ。「イエス様ならどうされるだろうか？」と考えて子どもと関わっていけばよいという言葉が、日々悩める先生達の保育の指針となった。
		A	・保護者との連携強化	「ひかりのこつうしん」や「お誕生日会」の園長挨拶等を通して、どんな子どもに育ってほしいのか、何のための行事なのかを保護者に伝えた。 お誕生日会の保育参加は、家庭では見られない集団での子どもの様子や成長を知り、他の子への関心にも繋がっている。共育ての基盤となり園がどのような理念で、この活動をしているのかを感じて頂く場として、有効に機能した。

N O	評価 項目	評価	取組むべき課題	取り組み状況
		A	・保護者支援の充実	「育自のひろば」(※保護者、牧師、園長の子育て交流の場)保護者が参加しやすいように、ランチパックの申し込みを毎回行い、ゆっくりと過ごしてもらえるよう企画。また子どもの遊びスペースを作り、フリー教諭に子どもをみてもらうなどの子育て支援を行う。 子育てに悩む保護者の方に足を運んでもらえるよう、担任の先生からも育自のひろばの推奨活動を行った。 助産師でありクリスチャンでもある高木さんを招いて「育自のひろば」にて「性の話」をしてもらった。保護者にとっては、伝えにくいと感じがちな「性の話」を、神様の愛という視点でとらえ直す機会を提供できた。
2	キャリアパスの導入	AB A	・職員の成長支援 ・専門性の向上	管理職との面談で自己評価と目標設定、計画・実行・振り返り・改善のPDCA サイクルを回すことで、保育者の成長支援を行った。 個々の保育経験年数に応じてキャリアアップ研修を受講してもらう。キャリアパス計画を立て個人の研修記録をまとめる。入職3年目以降の教員は、2026年までに60時間の研修が修了し、保育士の処遇改善が図られるよう、専門性が高められるよう働きかけた。
3	繋がる保育	A AB A	・プロジェクト保育の進化 ・担任間の連携強化 ・環境構成の意図明確化	プロジェクト保育8年目、子どもの興味関心に基づいた計画的な保育を行っていくために、Web マップを作成し、担任が予測を立てながらプロジェクトを深め繋げていくことに努めた。学期ごとに学年で集まり、管理職・リーダーも加わって、担任が描いた Web マップをもとにクラスごとにプロジェクトの振り返り、今後の展開を共有する。互いの保育を知り、刺激を受け合って、意見交換やアドバイスをすることができた。プロジェクト保育が無計画にならないよう、予め担任が Web マップを描くことで見通しをもち環境をつくることができた。保育者自身が子どもの姿を深く捉え、次の活動へ繋げる力が養われつつある。 <u>プロジェクト保育：子どもの興味や関心に基づいたテーマを探究する保育実践。保育者と子どもたちが一緒に対話しながら保育を進める主体的かつ共同的な保育</u> プロジェクト保育を行うことで、クラス間での習熟度に差が生じていることが課題である。 教職の事例の共有や他園の保育を見学した。リーダーのクラス巡回を増やし、公開保育等を視野にいれプロジェクト保育を深耕させる。 大橋功先生の教育講演会にて、自園が行っている保育を専門的な目線から保護者に語っていただいた。たくさんの感触あそびを大切にしながら、子どもの「やってみたい!」という思いや考えを大切に受け止めながら保育を展開していることを評価してくださった。 3学期の体育参観(YMCAの講師による)を実施。それに合わせてお部屋参観を行い1年間のクラスの活動の総括を伝える場にできた。

N O	評価 項目	評価	取り組むべき課題	取り組み状況
4	研修	A	・表現力の育成	造形あそびを伴走して下さる大橋功先生の研修を2回実施。子どもの「あるがままの表現」を受け入れ共感することが豊かな心を育むことになると学んだ。大人から見た見栄えのする絵を描かすことなく、やりたい気持ちを大切に子どもの創造力を伸ばすことの大切さを教えて頂いた。今年度から子どもの絵の成長記録をファイリング。大橋先生の教育講演会や「ひかりのこつうしん」等を通して、子どもの発達を踏まえた肯定的な絵の見方を保護者と共有することができた。 <u>大橋功先生（和歌山信愛大学教授）美術教育学・美術科教育。幼児期から青年期の発達段階に基づいた造形表現や学習指導を研究。理論と実践を繋ぐ活動を幅広く展開されています。</u> 管理職の相談にものってくださっている鈴木正敏先生の研修を2回開催、子どもたちの様子やプロジェクト保育の助言、3学期の参観の持ち方についても助言をいただき、質の高い保育を目指した。 ECEQを数年後に受審することを見据えて、プロジェクト保育を深め、ポートフォリオの充実、同僚性の構築について、鈴木先生に指導いただき、研鑽を積みたい。 <u>ECEQ（イーセック）：大阪府私立幼稚園連盟が推奨する、公開保育を活用した自己評価システム。保育を見せ合い、語り合うことで、園全体の教育・保育の質を継続的に高めていく取り組み。</u> <u>鈴木正敏先生（兵庫教育大学教授）子どもの「知りたい・やってみよう」を形にするプロジェクト型の学びを研究。国内外の先進的な幼児教育の実践を日本に紹介し、子ども一人ひとりの主体性を尊重する保育の普及に尽力。現場に寄り添い、日々の遊びを学びに変える保育のあり方を提唱されています。</u>
		A	・遊びの質の向上	絵本と木のおもちゃの専門会社である、きっずいわきパフさんの担当者によるおもちゃ研修では、木のおもちゃの遊び方やおもちゃの知識を深められ、クリスマスのプレゼントのおもちゃ選定でも役に立った。
		A	・性教育の推進	クリスチャンである助産師高木さんによる「性のお話」の講演会。 自分たちがどのように望まれ、神様の手によって創造されたという命の尊厳について年長児、保護者、保育者に語っていただいた。「性」を通して、自分も他者も大切にされるべき「かけがえのない存在」であることを再確認する貴重な学びとなった。「育自のひろば」でも聖書の御言葉を用いて、命の素晴らしさについてより掘り下げてお話をしていただく機会をつくった。

N O	評価 項目	評価	取組むべき課題	取り組み状況
5	子育て支援の充実	AA	・地域との連携強化	あそぼう会を毎月6～8回実施、土曜日開催 5 回実施。 未就園児親子の拡充に繋がり、土曜日開催をすることで、両親での参加が増加した。 インスタであそぼう会、ナースリー(2歳未就園児親子登園クラス)の活動を随時報告、子育て世代への発信することで、参加者が増加した。
		A	・新入園児の獲得	『交野市 子育てマップ』(子育て世帯の転入、母子手帳配布の際に配布される冊子)(5000 部)にひかりの子が園の子育て支援の広告を掲載し情報発信に努めた。 ナースリークラスから満3歳児クラスとの連携。子育て支援の先生と管理職、満3歳児クラス担任と連携することで、支援の必要な子どもへの援助が強化された。
		A	・未就園児との交流	今年度より「おめでとう会(同じ誕生月のお祝い)」「さくらんぼ広場(マタニティさん等の集まり)」などのイベントを行う。子育て支援の先生や先輩のお母さん方と育児の悩みを共有し、相談する良い機会となった。
6	仕事の軽減化	A	・業務効率の改善	事前申請することにより、残業については、ほぼ 10 時間/月以内に収まることが常態化している。
		AA	・環境整備のアウトソーシング	年度末に行う水回り・窓掃除を業者委託することで、担任の仕事負担が軽減した。
		AB	・保護者との連携方法の改善	シールノート(登園した日に子どもがシールを貼る出席ノート)に毎月担任のコメントを書くことを廃止し、「ひかりのこファイル」ポートフォリオ 1 枚、学期ごとの担任のコメント、個人懇談アンケート等をまとめたものに変更。 個人の写真を入れ、子どもの成長の過程を書くことで、よりわかりやすくなったが、写真を整理するのに時間を取り、仕事の軽減化にはつながっていない。まだ慣れていないこともある。
		A	・書類作成の効率	クラスだよりの形式の改良を試みた。フレームワークの作成、載せる写真の枚数も減らすことで、限られた時間内で作れるようになった。
		A	・業務効率の改善	フリー教諭が保育教材の準備や備品の整理などを担ってもらうことで仕事が軽減された。

N O	評価 項目	評価	取り組むべき課題	取り組み状況
7	環境の向上	A	・ 保育環境の向上	保育室備品を計画的に更新し、子どもたちが安全・快適に過ごせる環境を整備した。 園庭の整備により、石ころなどが無くなり、裸足になっても安全に遊べるようになった。砂場の排水も面も向上した。 年長の机と椅子を新しくする。子どもの猫背、体幹のなさにより、椅子に姿勢よく座れない子が多くなってきている現状を踏まえ、姿勢を正すための椅子を購入した。 3階のプール倉庫をリフォームし、廃材や行事用品、絵画道具などの整理整頓ができ使いやすくなった。 老朽化した日除け用テントに代わり、最新のパラソルを設置、以前に比べ操作性が増し、熱中症対策としての遮光範囲も最適化され、より安全に屋外活動を楽しめるようになった。

6. 総合的な評価結果

評価	総 論
A	【成長】 教職員が育つことで保育の質が向上し、“子ども・保護者・保育者”が共に育つこととなる。その取り組みの継続こそが学園のブランド価値に繋がり、経営の安定に繋がると考える。「学園理念を改めて再認識」、常に理念と保育が繋がるよう伝え続けた。 【繋がる保育】 子どもの興味・関心から、遊びや生活の中で学びを深めていろいろな活動に派生し繋がっていく 子ども主体の保育（プロジェクト保育）を実践した。今後も、この「繋がる保育」のさらなる深化を目指す。 【研修】 子ども・保護者の利益及び満足度の向上のため、それぞれの立場・役割に応じた研修を受け能力開発し、共に助け合いながら学園理念の実践に努めた。 【総括】 小規模保育施設・認定こども園として学園の存在意義・役割を果たすことを念頭におき、求められる役割を全うし、地域の子育て世帯への支援充実に取り組んだ一年となった。

評価： AA…十分に成果があった

A …成果があった

AB …成果があったものの不足していることも見受けられた

B …少し成果があったがまだ十分ではなかった

C …成果がほとんどなかった

7. 学校関係者（評議委員）の評価

- 学年リーダーを配置され、若手の先生が相談しやすい環境を作られています。先生方の協働の様子は、子どもたちにとっても「大人になっても1人で頑張らなくていい。協力しあうことはステキだ」という姿を日常的に見せてくださっていると感じます。
- 人権講習で先生方が共有されました「イエス様ならどうされるだろうか?」「大人の自己開示により、子どもが安心して自分らしさを出せる」という考え方は、保育目標の実現に向けた具体的かつ誰もが分かりやすい行動指針だと感じます。先生方がこれまでも日頃から基本とされていた考え方かもしれませんが、今一度、先生方で同じ研修を受講し確認をされることに意義を感じます。保育の質の均一化、園の特色にも通じると感じました。
- 「育自のひろば」参加への保護者支援として、今年度は「フリー教諭がこどもを見る」ことも加えてくださいました。また、担任の先生からの子育てに悩む保護者への声掛けなど、必要な方に情報が届くような働きかけも有難うございます。
- 昨年度のスキルマップでの現在地確認からさらに進めて、経験年数に応じたキャリアアップ研修を受講、記録のまとめをされています。「ひかりの子幼稚園の先生方は保育のプロである」という安心感が保護者にも伝わり、アンケート結果での「通わせてよかった」等の項目につながっていると感じます。
- PDCA サイクルを継続的に行うことにより、年々保育の質を向上させておられると感じます。今後の新任の先生も、ご自身の個性を活かしつつ、自信をもって「ひかりの子幼稚園が大切にしている保育」を実現できるような標準化が行われることを期待します。
- プロジェクト教育の広がりや深まりには目を見張るものがあります。
評議員会後に各教室を回っての園長先生からの熱のこもったご説明からも、こどもたちも先生方も意欲的に年間通じて継続的に取り組まれていることが伝わりました。各教室全て違うということから、子どもたちの無限の可能性、ワクワク感が伝わってきます。
未来に向かう力（非認知能力）の育ちはもちろん、今、幸せな子ども時代を過ごすことができる幼稚園であると感じます。
- 「子ども主体の活動」は子どもたちの興味関心の向かう先を予想し、回答や制限を言わずに支えていくことは並大抵のことではなく、子どもたちの将来を見据えた先生方の情熱には頭が下がる思いです。科学や歴史にもつながり、子どもたちや先生方の心が繋がり、そして社会に目を向けることは、幼稚園の保育目標に直結します。
- 遊び・表現・人権・心身の健康・性教育等様々な観点で研鑽を積まれています。
保護者への内容共有も都度、また折りに触れ、行ったださっていると感じます。
- 今年度からの「おめでとう会」「さくらんぼ広場」の開催は、子育て中、あるいはプレママ・プレパパの出会いのチャンスや先生方から学ぶ機会となっていると感じます。
- 子育てマップでの「ひかりの子幼稚園」の広告からも、「子育て相談ができ、妊娠中から集える」ことが伝わります。
- 今年度は、シールノートについての方向性の決定がありました。
仕事の軽減化と共に、子どもや保護者にとって、嬉しい成長を感じ、思い出に残せるポートフォリオだと思います。職員の皆様が経験年数等に関わらず、継続しやすい形が見つかりますように。
- 園児の健康、成長、安全面、快適さ、様々な観点からよりよい環境の吟味と実現をされていると感じます。
- 「プロジェクト保育」の実践が印象的です。園児ひとりひとりのポートフォリオを作成して、保護者の方々と先生方が都度やりとりを重ねながら成長を見守ってゆくというのは、言うは易しでたいへん先生方の労力が必要だと思います。写真も満載で、これなら卒園時のプレゼントにもなり、素晴らしい取り組みだと思います。
- 小さな子どもの絵の読み解き方、寄り添い方に関する大橋先生のレクチャーも同じく素晴らしい取り組みで、ひかりの子学園らしいと思います。
- 全体として、園児はもとより、保護者も教職員も同時に育っていくメカニズムが整備されていると感じます。なるべく、対面でコミュニケーションをとって柔軟にものごとに対応してゆかれることを願います。

- 保護者アンケート結果の「19.幼稚園は、保護者や地域の人との協力を得て保育の質の向上のための取り組みをしている」の結果から、常に上を目指す園の姿勢が保護者にきちんと認識されているのが素晴らしいと思いました。
- 自由記入欄を読ませて頂き、保護者から先生への信頼が伝わってきました。
『子どものやりたい！に全力で答えてくれる幼稚園』という記述は園の取り組みがそのまま保護者に伝わっていることを実感しましたし、保護者にとっても園児にとっても魅力的な環境であるのは間違いないと思いました。
- 対応が小まめであること、早いこと、柔軟であることを評価する記述が複数あり、それが園への信頼につながっていると感じました。
『寄り添い励まし続けてくれる先生のお陰で、本人が人に寄り添い励ますことができるようになって』という記述はひかりの子の学園理念の成就を見たようで、感動しました。
- 学年ごとにリーダーを配置し、経験豊富な先生がクラスを俯瞰的に見ることで保育の質が向上したとのこと、素晴らしいことだと思います。
ベテランの方が時折見に来られるというのは 若手の先生は緊張するかもしれませんが、クラスごとの保育の質にあまりにも差ができてしまうのはいけないと思います。(小学校以上ではそれが常態化しているようにも思いますが) リーダーがすべてのクラスの様子を把握でき、日常的に具体的なアドバイスができる状況は大変良いと思います。
- 自分自身は幼稚園で性教育を受けたかどうか憶えていませんが(二次性徴の本は置かれていた記憶があります)、年長で性を学べるのは先進的だと思いました。自分の身体を守る尊厳は幼いうちに知っておいた方が、友達の尊厳を守ることにともつながり、良いと思います。
- 定型化している業務形態を変えながらない職場が多い中、仕事の軽減化のために様々な試みをされて結果を出されているのが素晴らしいと思いました。
「シールノート」から「ひかりの子ファイル」への変更は先生のご負担がかなり増えたと思いますが、保護者の大半に喜ばれていることと思います。
- まず教職員の方々が「育つ」ことを念頭に置かれ、且つそれを「継続」することで繋がる未来を見据えられた学園理念が素晴らしいと思います。アンケートの記述から、先生の努力が保護者に十二分に伝わっていることがわかり、理念を形骸化させることなく実践されている様子が伝わってきます。
- 「共に成長を目指す」という先生方の姿勢は、自分が通った小・中・高校ではまるで感じられなかったもので、ひかりの子学園は理想的な教育の場だと感じています。
昨年の総合評価の「依然として全教員にまで及ぶに至っていない」という部分を改善するべく、いっそう深く取り組まれたことが伝わってきました。
- カウンセリング・育児のひろば・園庭開放・ナースリー・あそぼう会などの子育て支援活動もひかりの子幼稚園の中で完結されていることは素晴らしいと思います。”
- いろいろな個性のある児童が、お互いを認め合っているのだと分かるクラス運営がなされており、担任も加配の先生も自然体で子どもたちに接しておられるなかで、そのことが実践されていることが分かった。
- 就学前教育で、このような教育がなされていることは、公教育を担う立場としては大変心強く感じる。どのような立場の子どもも神の愛を平等に受け取り、互いに分かち合うことがデフォルトであるひかりの子幼稚園の教育が、今後も続いていくことを期待している
- 今後も、教職員一人ひとりが、真に主体的な教育に臨まれ、子どもたちが愛の中で成長できる環境を整えてくださることに感謝の意を表します。

- プロジェクト保育を展開するなかで、「活動内容がクラスごとに差異が発生する点について」へのご質問について

ご回答⇒ プロジェクト保育は、子どもの興味を起点に探究を進める「プロセス」を重視しており、クラスごとに内容が異なることこそが本質であると考えております。

差異が生じる主な要因は、子どもの発達段階やクラスの個性によるものです。例えば同じ「水」というテーマでも、年少は「感覚」を楽しみ、年長は「仕組み」を追求するなど、年齢に応じた深まりの違いが活動の差となって表れます。

担任の視点や展開の仕方については、管理職の助言や外部研修を通じて組織的に質の向上を図っております。今後も、クラス懇談や参観等を通じて「出来栄ではなく、活動の過程（プロセス）の重要性」を丁寧にお伝えし、保護者の皆様に本保育の意義への理解を深めていただけるよう努めてまいります。

- プロジェクト保育におけるテーマ選定について、『よく発言する子だけの興味や関心が採用されていないか』へのご質問について

ご回答⇒ プロジェクトのテーマ選定は、多数決や声の大きさで決めるものではありません。少数の子が黙々と取り組んでいる活動を担任が教育的価値として取り上げたり、サークルタイムでの対話から全員の関心事へと発展させたりと、子どもの姿に合わせて柔軟に対応しています。

クラス内では必ずしも全員が同じ活動をするわけではなく、複数のプロジェクトが並行して動くこともあります。活動に直接参加したくない子についても、本人の意思を尊重し「見守る・観察する」という形で参加しています。また、他のクラスのテーマに興味を示す声がある場合には、その関心をクラス内の活動に反映させたり、掲示物などを通じてお互いの活動を知る機会を作ったりと、個々の探究心が途切れないよう配慮し、日々の保育を展開しております。

- 『ホームページやSNS等における園児の顔写真の掲載、および個人情報の取り扱いについて』へのご質問について

ご回答⇒ プライバシー保護に関する貴重なご指摘をいただき、ありがとうございます。当園では、インターネット上での情報公開について以下の通り対応を徹底しております。

まず写真の掲載については、年度当初に全保護者様へ意向確認を行い、承諾をいただいたお子様のみを対象としております。掲載不可の意向がある場合は、対象から外す、または個人の特定ができないよう加工（シャをかける、名札を隠す等）を施すなど、細心の注意を払っております。今後は、不特定多数が閲覧するSNS等において、ご要望のあった「後ろ姿や活動の全景」を中心とした撮影・選定をより一層意識し、安心してお子様を預けていただける発信の仕方に努めてまいります。また、園内での情報共有につきましても、保護者様によって捉え方が異なることを改めて認識し、ご相談をお受けする際には共有の範囲について丁寧な確認を行うなど、適切な管理を徹底してまいります。

8. 今後取り組むべき課題（2026年度）

課題	取り組むべき課題	具体的な取り組み方法
1. 人材育成を目指す	組織力の向上	• 今年度もキックオフミーティング等あらゆる機会を通じて保育理念を教職員と共有する。 • ファシリテーション研修への参加推進し、会議や日々のコミュニケーションの質を高める。 • 管理者によるクラス巡回を実施し、保育現場の実態把握と職員が孤立せず安心して働けるサポート体制を構築する。
	キリスト教保育の深化	• キリスト教保育の考え方を知り、理解することが大切であるという基本に立ち返り、職員会議でキリスト保育指針輪読で理解を深め、日々の保育実践へ落とし込む。 • 長年、見直しされていなかった宗教カリキュラムの見直しを行い、子どもたちにとってより身近で深い心の育ちにつながるにする。
	保育の質の均一化	• 行事、ルール見直しで担任間の認識のずれを解消し、共通理解に基づく一貫性のある保育を推進する。 • 教員による全クラス状況共有の機会創出を図る。他クラス（先輩・後輩を問わず）の保育現場を互いに見学し合うことで、客観的な視点から自らの保育を振り返り、園全体の保育向上につなげる
	保護者との連携強化	• 園だより、クラス懇談会などを通して保育目標や行事の意義を伝え、家庭との丁寧な対話を重ねることで、相互理解を深め、信頼関係を築く
	保護者支援の充実	• 「育自のひろば」の環境を整備し、広く保護者の参加を促進する。また保護者からの要望もあり卒園した保護者（1年生）にも育児のひろばに参加できるよう告知し、パンランチも余分に準備し広く保護者の参加を促進
2. キャリアパスの導入	職員の成長支援	• 管理職との面談で自己評価と目標設定を行い、PDCA サイクルで成長を支援する。 • 正職員は、15 時間研修を受講し、専門性の向上を図り、キャリアを積んでいく。 • ファシリテーションの研修を中核、主任教諭も再度受講する。
3. つながる保育（プロジェクト保育	プロジェクト保育の進化	• 子どもの興味に基づいた計画的な保育をサポートし、子どもたちの探求心を豊かに育む。
	職員間の連携強化	• Web 作成を通じた意見交換を学年と管理職で学期ごとに行っていたが、今年度は毎月リーダーも加わり意見交換する場を設け、環境構成、コーナー活動の充実を図る

課題	取り組むべき課題	具体的な取り組み方法
4. 研修	表現力の育成 人権研修 性教育の推進	- 造形研修を通じて保育者が子どもの豊かな表現力と創造性を引き出していく力を育む。昨年同様、講師を招き造形についての知識向上に務める。 - 今年度も人権研修を行う。子ども一人ひとりの主体性と尊厳を守るという意識が職員間に根付くようにする。また職員が自分の弱さや悩みが共有できる風通しの良い職場作りを目指したい。 - クリスチャンである助産師による研修を実施。聖書の御言葉を用いて、自分自身の体は神様から与えられたとても大切なものであるというメッセージを子どもたちに伝えて頂く。
5. 子育て支援の充実	地域との連携強化 保護者参加型のイベントの充実 『こども誰でも通園制度』の開始	- あそぼう会（地域園庭開放）を拡充し、未就園児親子への支援を強化する 「おめでとう会（同じお誕生日の集まり）」「さくらんぼ広場（マタニティさん等の集まり）」など、各ライフステージに応じたイベントを充実する - 孤立しがちな子育て家庭の不安を解消し、「共育て」を応援する。社会全体で子どもを育てる安心感を提供できるように努めていく。
6. 仕事の軽減化	業務効率の改善 環境整備のアウトソーシング 保護者との連携方法の改善 業務の負担軽減	- 残業申請制度で計画的な業務を推進し、残業時間を削減する。 - 業務外注化を検討し、職員の負担を軽減する。 - ひかりの子ファイルを共有し、園と保護者双方向のコミュニケーションを促進する。 - 年長組の卒園アルバム作成にかかる教員の負担を減らすため、アルバム写真の撮影や管理の業務を、リーダーが行うことに変更する。
7. 環境の向上	保育環境の向上	保育室の備品を計画的に更新し、子どもたちが安全・快適に過ごせる環境を整備する。 [砂場] 園庭の砂場に設置されている藤棚の解体と新規シェードの設置。 [ホール] 園児イスを長イス使用に。軽くて丈夫なものに取替実施。 [保育室] ・保育室備品を常設できるオープン型収納棚を設置し、園児の自由あそびを充実させる。 ・昨年度年長児、今年度年中児と保育室の机、イスを新調。

今後も園内外問わず、頂いたご意見には真摯に向き合い教育施設としての役割と使命をもって鋭意努力して置く所存です。

利用していただく園児保護者のみならず、教職員の想いの実現の場であるよう運営してまいります。